

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
E112E016		書道概論 (Introduction to Calligraphy)							対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
必修	2	2	教育学部 令和2年度 以降入学生用	前期	金3	日本語		単独							
担当 教員	氏名 樋口 将一														
	E-mail 内線														
授業 の 概 要	書道の基礎的知識を学習する。 楷書と行書の学習を通して、国語科書写教育に必要な基礎的技能を理解し習得する。 書道の歴史や道具についての知識を鑑賞と実践をまじえて学習する。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	書写・書道教育の重要性を理解し、子どもをよりよい表現者に育てていこうという使命感、責任感を強める。														
目標2	書道の用具用材、技能、書体と書風について、理解し表現することができる。														
目標3	書道の古典、作品について、自主的・協同的に鑑賞し合うことができる。														
目標4	書写教育に必要な基礎的技能を習得し、学校教育における書字文化の質的向上を考えられるようになる。														
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)							2	3	3	2					
授業の内容															
1	授業内容と道具についての説明。硬筆書写に関する簡単な調査。筆記用具を用意すること														
2	用具用材 硯について/墨の磨り方と姿勢と執筆、道具の片付け方法の理解と実践														
3	用具用材 墨について/基本点画の理論と実践														
4	用具用材 筆について/毛筆の鑑賞と体験。基本点画の練習														
5	書道の学習方法 甲骨文について/基本点画の練習、甲骨文字を書く														
6	書道の学習方法 古典と臨書について/甲骨文字の臨書														
7	書道の学習方法 拓本について/拓本の鑑賞と楷書古典の臨書														
8	楷書の古典 九成宮醜泉銘1/九成宮醜泉銘の書風の理解と臨書														
9	楷書の古典 九成宮醜泉銘2/小筆の姿勢・執筆法と実践。生活の書への応用														
10	楷書の古典 雁塔聖教序/楷書の書風の比較と鑑賞、異なる風格の書き分け														
11	行書について/書道の複製技法及び双鉤填墨法の実践														
12	行書 蘭亭序について/行書の特徴と蘭亭序の臨書														
13	行書 王羲之について/小筆による蘭亭序の臨書と生活の書への応用														
14	作品制作 / 作品制作の手順と作品構想														
15	作品制作 / 作品制作と鑑賞														
ラ イ ク ニ ン グ	A:知識の定着・確認	授業では講義(鑑賞を含む)と実技を行う。講義では知識の習得だけでなく、実際に本物を見たりさわったりする体験を重視する。また、その体験をミニレポートによって文章にまとめる。				工 夫 そ の 他 の	特になし。								
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造	実技は学生同士による観察、意見交換によって進める。													
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	moodleに掲載する動画を視聴しておくこと。その他、書写で学習する内容を実践し把握するために硬筆書写(小学校低中学年相当)の課題を課す。(30h)													
	事後学修	授業内容に関して毎回テーマを決め、ミニレポートを書く。(15h)													
	想定時間合計	45													
教科書	プリントを配布する。 小学校国語書写、中学校国語書写、高等学校芸術書道に関する学習指導要領を含む。														
参考書	プリントを配布する。														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	授業内の提出課題	30%										
	ミニレポート	30%										
	授業の取り組み	30%										
	硬筆課題	10%										
	提出課題はいわゆる上手い下手ではなく、課題の理解度を評価する。											
注意事項	なし											
備考	書道道具の内、硯・文鎮・下敷きは大学のものを使用する。 大筆・小筆・墨（固形墨）・紙は各自用意する。道具については第1回授業で指示する。											
リンク	URL											
担当教員の 実務経験の有無												
教員の 実務経験	幼児から高齢者の生涯学習まで幅広い年代への書写書道教育の実務経験がある。 高等学校芸術科書道の教員実務経験がある。											
実務経験を いかした 教育内容	書道に関する経験を問わない、ゼロから始める学習。 実技以外の書道に関する知識を、鑑賞と実践をまじえて学習。具体的には墨の原料に触れたり、拓本を制作するなど。											